

# 川柳アート

リニアモーターカーの中央新幹線は二〇二七年の開業を目指しており、東京―名古屋を最速で四十分。将来的には東京―大阪を最速六十七分で結ぶ。新宿でお茶飲みますか？道頓堀にしましょうよ。

せまい日本ますますせまくするリニア

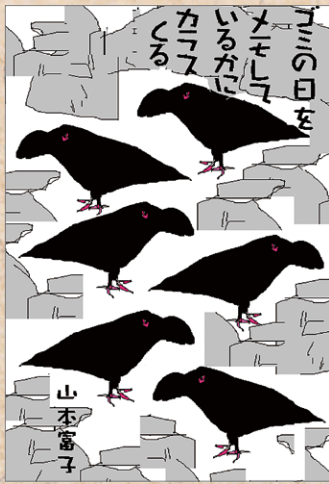
今月の  
八木健



## 特選

選者・川柳アート  
八木健

（月刊川柳総合誌「川柳マガジン」元選者）



山本 富子 (宇和島市)

ゴミの日をメモしているかにカラス来る  
人間VSカラスは、カラスに軍配が上がる。  
句はカラスを憎むのではなく、その才能に敬意を払っている。この場合、人間を風刺することにもなる。ゴミの日はいつだったかしら？カラスに教えてもらいなさいよ。

## 佳作



タッチした足に  
炬燵も赤くなる  
田辺 進水

田辺 進水 (松山市)

タッチした足に炬燵も赤くなる  
寒くもないのに炬燵に入っている。テレビをつけているのに上の空。会話がトンチンカンで噛み合わぬ。こんな場合は怪しい。古来、炬燵は足のデパート場となってきた。水虫菌の拡散という副産物もあるが。



大西 知子 (松山市)

おんぶして子の体温を暖房に  
地球に優しい暖房であり、親子の絆を深めることにもなる。子だくさん家庭なら、貸し出しもできる。府知事の橋下さん、まず大阪から始めませんか？



武井 基次 (松前町)

捕まえる側が捕まる新時代  
検事が証拠のデータを書き換え。道の時間が熱弁を揮う教師が痴漢。警察官が飲酒運転の上にひき逃げ。世はまさに逆転の時代である。川柳の材料が増えすぎるのも困る。



村田 節子 (八幡浜市)

汗だくで妻が出てくる試着室  
サイズの小さいのを試着するからボタンがはまらない。時間もかかる。結局ダイエツトが必要と納得。ダイエツトしてからの着見込みとして購入。三年後にそのまま粗大ゴミに……。凶星でしょ。



古野セキ工 (松山市)

タレントに間違えられたサンングラス  
サンングラスを外したときに驚くほどのイケメンはいない。イケメンにサンングラスは不要。サンングラスに頼る男はつまり、イケメンではない。

## 古今の名句



五十嵐 修

減量の辛さ秤は知り尽す  
川柳は誰も気付かなかったことを言う「ウケル」。減量の辛さに涙する様子を知るのは秤だけ。秤を擬人化、メタボに同情して成功している。知り尽くすは「二部始終」の目撃者ということ。（『ユーモア川柳傑作大辞典』より）

本コーナーが  
待望の単行本化  
好評発売中!!

「八木健の川柳アート」では、川柳を募集しています。テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限ります。採用された作品には八木さんが「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントいたします。応募方法は36ページをご覧ください。